

令和6年度第1回西宮市上下水道事業審議会会議録

開催日時 令和6年10月15日(火) 午後3時~午後4時30分

開催場所 西宮市役所第二庁舎8階801・802会議室

出席者 委員側 学識経験者：4名、使用者代表：3名

当局側：19名

傍聴者 1名

議題 (1) 令和5年度西宮市水道事業会計決算について
(2) 西宮市水道事業経営戦略の進捗管理について
(3) 令和5年度西宮市下水道事業会計決算について
(4) 西宮市下水道事業経営戦略の進捗管理について

<議題に対する委員からの意見等>

【議題1 令和5年度西宮市水道事業会計決算について】

【議題2 西宮市水道事業経営戦略の進捗管理について】

○当局からの説明

○各委員からの主な意見・質問

(委員)

資料1で水道事業の決算について前年度の決算との比較の説明があったが、令和5年度の予算との比較だと大きく異なった部分があったのか。

資料2の6ページで令和2年度から5年度までの計画と決算の比較の説明があったが、収益的収支も資本的収支も計画より少ないということは、予定されていた工事が出来ておらず、老朽化がますます進み、耐震性に問題がある設備が放置されていることになると思うが、どのように考えているのか。

(事務局)

令和5年度の予算と決算の比較において、給水収益が想定以上に減少し、前年12月に減額補正を行った。減少の要因は明確には分析は出来ていないが、電気料金の高騰が水道使用者の行動に影響を与えたのではないかと考えている。

工事が後送りになり、手持ち資金が一時的に増えることは、老朽化施設が残っていることになるが、老朽化施設の更新を進める必要があることには変わらない。今後、更新需要が高まる中で資金が減少し、経営状況は悪化すると見込まれるが、更新事業を着実に推進する必要があると考えている。

(委員)

給水収益が大幅に減り、今後工事費用やその他の費用は増加し、工事が進んでいないため、今後さ

らに費用がかかると聞くと不安になる。計画通りに工事が発注できていれば、費用が抑えられていたのではないかとわかってしまう可能性があるので、今後の老朽化や耐震化の工事の費用が膨らむことの説明をしっかりとしてほしい。

(事務局)

現在、必要な工事が進んでいない深刻な状況があり、継続的に計画をした工事をしかるべき時期に行わないと施設の維持に大きな影響を及ぼす可能性がある。工事の発注は行っているものの、民間の人材不足により工事が進まない現実がある。この問題を解決するために、国の新たな取り組みであるウォーターPPP を検討する必要がある、また、契約の柔軟性や継続費の活用など予算の平準化を図りながら、老朽化対策や耐震化を着実に進める必要があるが、現状は非常に厳しいと感じている。

(委員)

先ほどの話に関連するが、資料2の取組み評価で老朽化対策などの評価がCになっている。予算を計上したにもかかわらず、工事が受注できない状況なのであれば、今後料金改定をしてもその状況は変わらないのではないか。工事を受注するために高いお金を払う必要がある、料金改定すると説明する方が市民に理解してもらえないのではないか。

(事務局)

工事が不調になった際には、ヒアリングを行い、原因を確認する。割が合わない状況や人材不足で資格を持った監督を配置できないケースもある。不調になった原因を分析する必要があるが、発注金額が低いのであれば設計額を上げる考えもあるが、行政としては、根拠に基づいて予定価格を算出する必要があり、難しい問題である。今後、収益が厳しくなれば料金改定も必要になるが、委員のご指摘の通り、こういった現状についても説明を行い、我々ができる努力を重ねた上で料金改定を進める必要がある。料金改定の上で資産維持費の適切な設定が重要であるが、政治的な力で資産維持費を圧縮してしまうと将来の施設維持に支障をきたすため、その必要性を十分に説明することが必要だと考えている。

(委員)

資料2の評価がCになっている項目が非常に気になる。先ほど説明があったが、支出は少なかったが、工事が進められないのは、お金の問題なのか、人手の問題なのか、それも含めて市民にわかりやすい説明をお願いしたい。

(事務局)

料金改定については、市民に現状と水道事業の将来をご理解いただけるように、わかりやすく説明することが課題である。市政ニュースなど限られた媒体での広報で市民に水道事業の現状が伝わっているのか、審議会委員にご意見をお聞かせいただきたいと思っている。広報の重要性は認識しており、今後はその強化に努めていきたい。

(委員)

今年度に入ってから 2 回ほど自分の子供を通じて水道事業と接点があり、1 つ目は子供の社会科見学の場所が西宮市でも施設見学の受け入れ体制があるにもかかわらず、大阪市下水道科学館になったこと。2 つ目は、小学 4 年生を対象とした DVD を観て面白かったという感想を聞いたこと。安全な水を届けるためにお金を使うことは必要であると思うし、広報は全てを数値化が出来るものではないので評価するのは難しいと思うが、DVD の配布のみで終わってしまわないよう、配布後に先生からフィードバックを受けているのかなどがわかるコメントも記載してほしい。

(事務局)

本市では、施設見学に適した浄水場がなく、本市の配水の 9 割を担う阪神水道企業団の尼崎浄水場では、令和 5 年度は 9 校、令和 4 年度は 2 校の見学実績がある。阪神間には多くの小学校があり、すべて受け入れることは難しいため、大阪市の施設に見学に行かれたのだと思う。受け入れることについては要望していく。DVD とパンフレットの件については、小学校 4 年生で上下水道のことを勉強するため、それに合わせてパンフレットとパンフレットに合わせた DVD を自由に使っていただいている。

数年前に社会科の先生にご意見を伺って、パンフレットを改訂した。今後も一定期間でまた見直しを行い、学校の先生からの意見を反映するなどしていきたい。

(委員)

令和 5 年度の決算の説明だが、令和 6 年度以降の 5 カ年とか 10 カ年の計画がわからないので、老朽化について、他の委員の方も質問するのだと思う。水は蛇口をひねれば必ず出てくるものだが、多くの工程がありコストがかかる。必要なコストを反映することは必要であるが、なぜそのコストが必要であるかを説明してもらえれば、コストが上がることは問題ないと思う。今の状況を維持するためには今後どうしていく必要があるのかを示すために令和 6 年度以降の計画を出していただきたい。

(事務局)

単年度決算の説明のみでは将来の見通しの質問が出てくるため、次回の決算や予算の説明の際には、将来を見据えた報告をさせていただく。

(委員)

資料 1 の 2 ページで収益的収支の説明を 4 行で記載しているが、審議会で説明を聞くと状況を理解することが出来るが、全く状況を知らない人を見ると給水収益が減っても支出も減っているから問題ないと判断されてしまうのではないかと。4 ページの資本的収支も同様に企業債の借入れが減ったのは、必要なかったから企業債を借りなかったため、支出が減ったことの方が重要であるので、難しいと思うが、審議会の説明を聞かなくてもわかるような資料作りを模索してほしい。

(事務局)

ご理解いただける資料の見せ方は非常に難しい。説明すればするほどわかりにくくなることもある。今後広報の活動にも関わってくるので、他市の資料を参考にしながらできる限りわかりやすい資料作りに努めたい。

【議題 3 令和 5 年度西宮市下水道事業会計決算について】

【議題 4 西宮市下水道事業経営戦略の進捗管理について】

○当局からの説明

○各委員からの主な意見・質問

(委員)

なぜ水道より額も大きい下水道の工事は順調に進むのか。

(事務局)

下水道に関しては、計画通り事業を進めるとともに、国の国土強靱化に関する補正予算が下水道に該当したため、それに対して積極的に取り組んだ。

(事務局)

下水道は上水道に比べて規模が大きく処理場が事業費に含まれている。先ほど厳しいと申し上げたのは、管路についてで、これは下水道も上水道ともに受注していただけない状況が続いている。

(委員)

水道の耐震化の項目は評価が C だったにもかかわらず、資料 4 の取り組み評価で下水道の耐震化は A になっているのはなぜか。

(事務局)

下水道の耐震化の取組みが A なのは、目標設定の際、延長の短い重要な管渠に評価対象を絞り、現実的に達成可能な設定としていることが大きい。水道は、全部の管路延長を評価対象としており、着実に更新延長を伸ばして耐震化しないと達成できない目標設定としている点で評価に違いが出ている。

なお、下水道の管ではヒューム管というコンクリート系の管と比較的耐震性が高い路線が多い VU という塩ビ系の管に分類されているが、水道は耐震管の管種が明確に分類されている。

(委員)

資料 3 の 4 ページの資本的支出の建設改良費で公共下水道整備費とあるが、普及率が 99%超えているにもかかわらず、まだ整備が必要なのかと思ってしまう。他市がどのように記載しているかわからないが、整備費なのか。

(事務局)

一般的にこういう使い方をしていると思うが、他市がどういう状況か調べる。

(委員)

資料 3 の 1 ページの業務状況の説明文に処理区域内人口は減っているが、年間処理水量が増加しているとあるが、関連性がわかりづらいので詳しく説明してほしい。

(事務局)

下水処理場に流入する汚水については、生活排水や工場排水がある。本市に 3 箇所ある処理場のうち枝川浄化センターは合流式の下水道になっている。合流式の下水道は、雨天時に汚水とともに雨水も流入し、処理能力の限界まで処理施設へ送って処理をしているため、雨天日の処理量は晴天日より増加する。令和 5 年度の年間降水量は前年度より 231 ミリの増の 1,139.5 ミリとなっており、人口は減っているが降雨量が多かったために処理水量は増えた。

(委員)

資料 4 の 2 ページ、ストックマネジメント計画に基づく改築更新の効率的な改築更新で令和 5 年度の実績が 0.09 で評価 A となっているが、この実績は令和 3 年度より低い数字だが、どのような評価をしているのか。また令和 10 年度の新目標値 0.23 は各年度を足し上げていくと理解でいいのか。

(事務局)

管渠の改築は、大きな幹線を改築するのか小さな枝線を改築するのかによって、施工単価が異なり、進捗する延長は変わってくる。令和 4 年度、5 年度が非常に少ない数字に見えるが、大幹線の改築を行っているため、投じたお金に対して、出来た延長は短くなったので結果的に 0.07 や 0.09 という数字になっている。

令和 10 年度の新目標値 0.23 は累積ではなく単年度の数字になっている。令和 10 年度に向けて管渠改築の事業費用を右肩上がりで増大させており、単年度の改築延長も伸びていく計画で今進めている。

(委員)

資料 4 の 2 ページ目の地震対策の施設の耐震化の実施、重要な幹線等の耐震化率で重要な幹線の定義を見直したとあるが、どのように定義が変わったのか教えていただきたい。

(事務局)

以前の定義では、下水道の法令上の汚水合流幹線、緊急輸送路や防災拠点の下流の管渠を重要な幹線としていたが、今回の見直しで雨水幹線や避難所の下流も重要な幹線と位置付けた。その結果、耐震上重要な幹線を 120 キロから 332 キロに増やした。今回定義を見直した趣旨は、耐震対策に対する国の補助金が増えると予想されるため、対象の管渠を増やし、出来るだけ多くの補助金を受け取りたいということである。

(委員)

4 月から上水道が国交省に移管して会計上の処理の仕方や管理部門の統合など何か影響あるのか。

(事務局)

4 月から所管が変わったが、会計上大きく変わったところは特にない。

(事務局)

水道事業が 4 月に厚労省から国交省に移管され、基準が緩和されたことで、本市は全国で初めて水道での災害査定を受けることができた。国交省は、災害対応に対して機動力があり、河川も道路もすべてライフラインを抱えているので水道についても、そういう意味では間口を広げていただいたと理解している。水道が激甚災害の対象とされたことで、今後水道が被災した時には迅速な対応が可能になると考えている。

【その他】

(委員)

水道事業は今後厳しい状況になり、給水収益も減少する中で、その対策として料金を上げるのは、民間企業では対策とは言えない。西宮市の人口は自然減少し、ふるさと納税の影響もあり収入が減っていく。今後人口を増やすことは難しいので、水道水を飲んでいない人に飲んでもらうことが必要になってくる。どのように水を飲んでいない人に飲んでもらえるのかを考えていく必要があると思う。

(事務局)

節水意識も進んで節水機器も普及している中で、水の使用量を増やすことは難しい課題だが、市民に水の安全性を理解してもらうことが重要だと考えている。その方法についても、料金改定を目指す中で、どういう形でしていくのかは我々考えていく必要がある。市政ニュースや SNS を活用してもなかなか伝わらないこともありもどかしさを感じている。審議会の委員の方にどのような形で広報を進めるべきなのかを今後ご意見いただきたいと思っている。